

2024年2月9日

各位

会社名 日本セラミック株式会社
代表者名 代表取締役社長 谷口 真一
(コード: 6929 東証プライム)
問合せ先 経理部担当執行役員 本城 圭
(TEL. 0857-53-3838)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、本日開催の取締役会において、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応方針を下記のとおり決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 現状分析

当社は、2019年度以降において、PBRは1倍を上回る水準で推移しているものの、ROEについては、当社が株主資本コストを上回る水準として目標値としている「8%以上」に対して下回って推移しており、ROEの改善は重要な経営課題であると認識しております。今後については、ROEの目標値を「9%以上」とし、達成に向けて取り組んで参ります。

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高(百万円)	18,575	17,116	21,358	23,258	24,449
営業利益(百万円)	3,169	2,846	3,380	4,178	4,574
当期純利益(百万円)	2,722	2,133	2,817	5,022	3,693
ROE(%)	5.4	4.4	5.8	10.3	7.4
PBR(倍)	1.45	1.55	1.45	1.14	1.31

2. 改善に向けた取組み

①収益力の向上

- ・中期経営計画の実行
- ・事業ポートフォリオの見直し
- ・生産性の向上

②資産効率の改善

- ・在庫の削減
- ・効率性を意識した経営
- ・成長に向けた資本活用

③株主還元の強化

- ・配当方針の見直し
- ・自社株買いの実施

④IR活動の充実

- ・株主との建設的な対話
- ・情報開示の充実

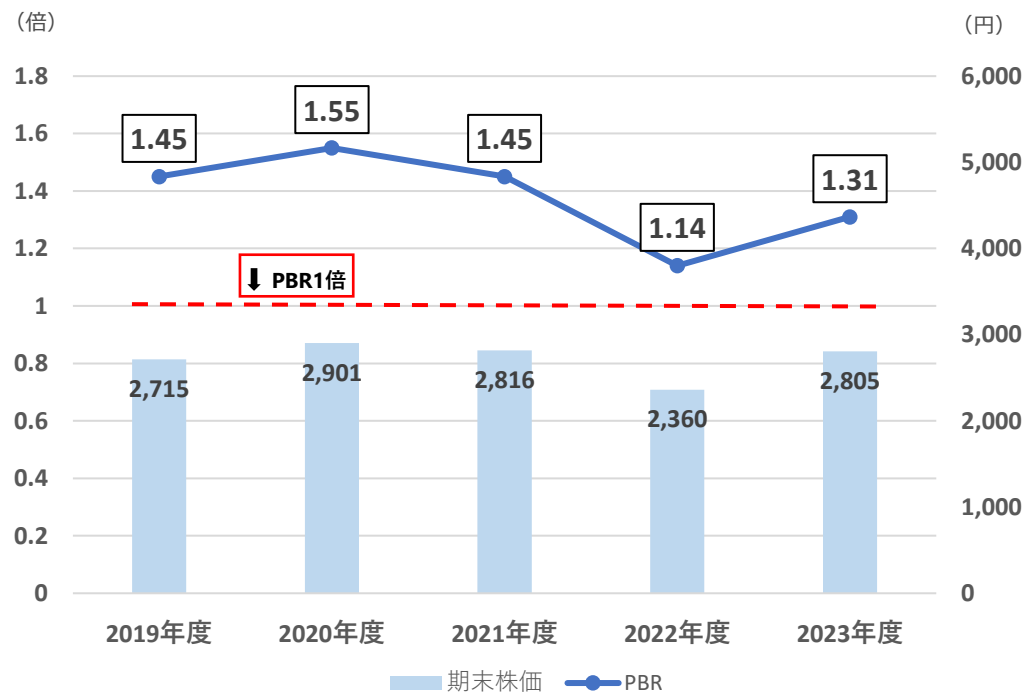
以上

添付資料：資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

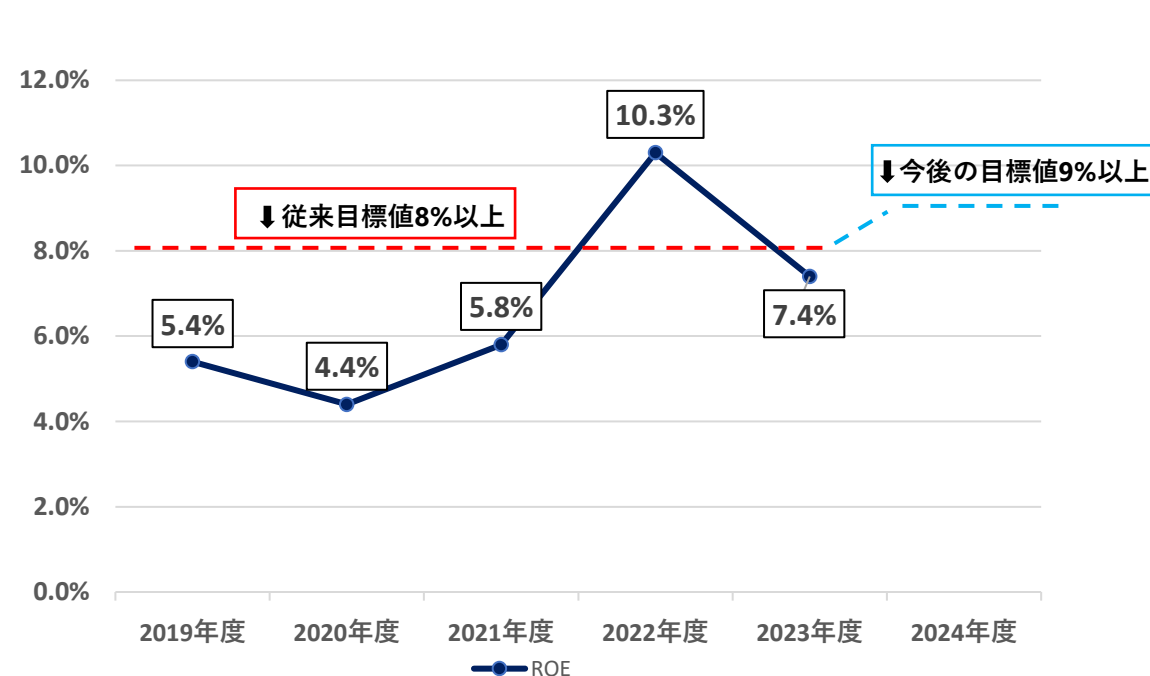
資本コストや株価を意識した経営の 実現に向けた対応について

2024年2月9日
日本セラミック株式会社(6929)

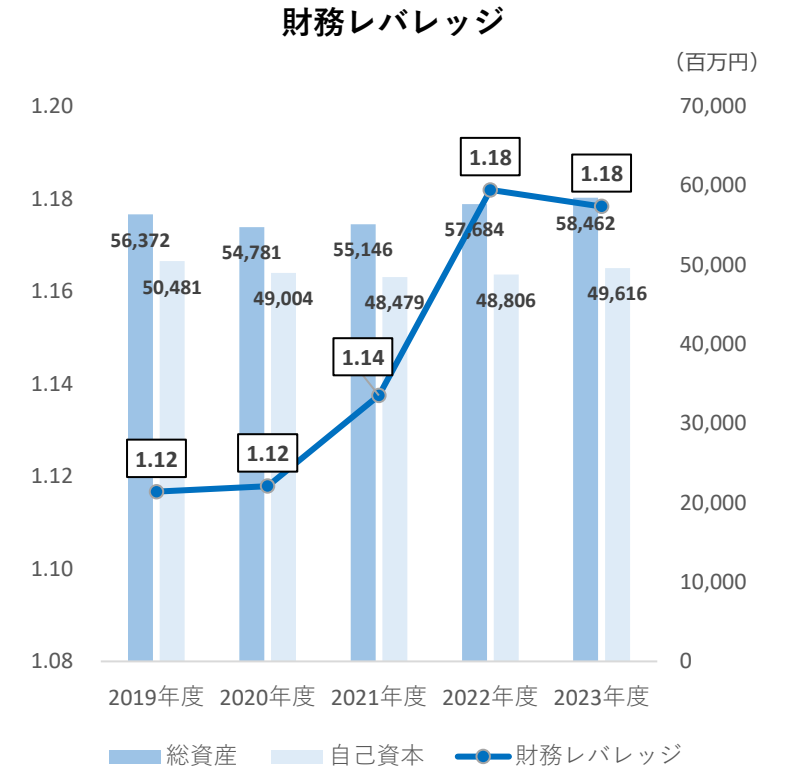
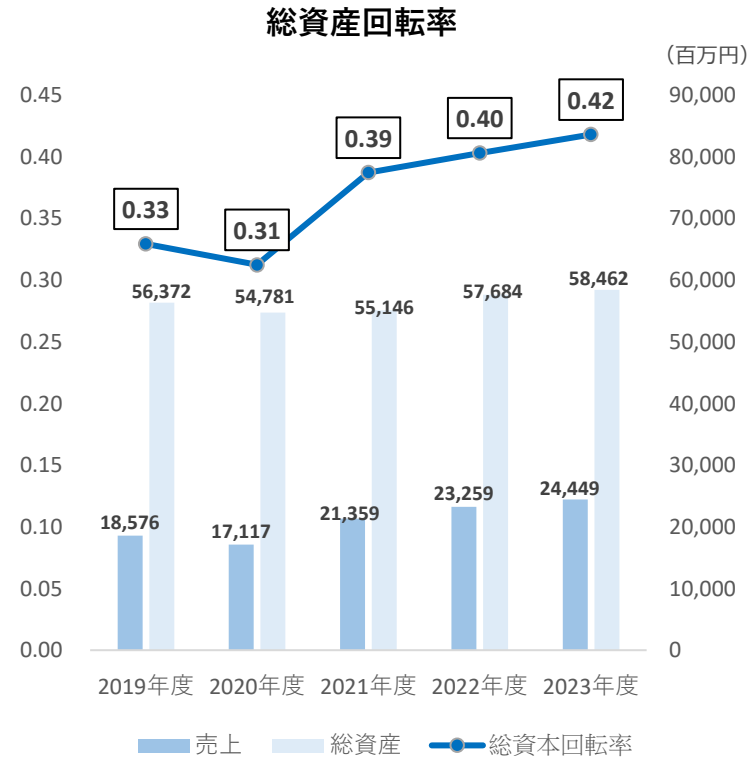
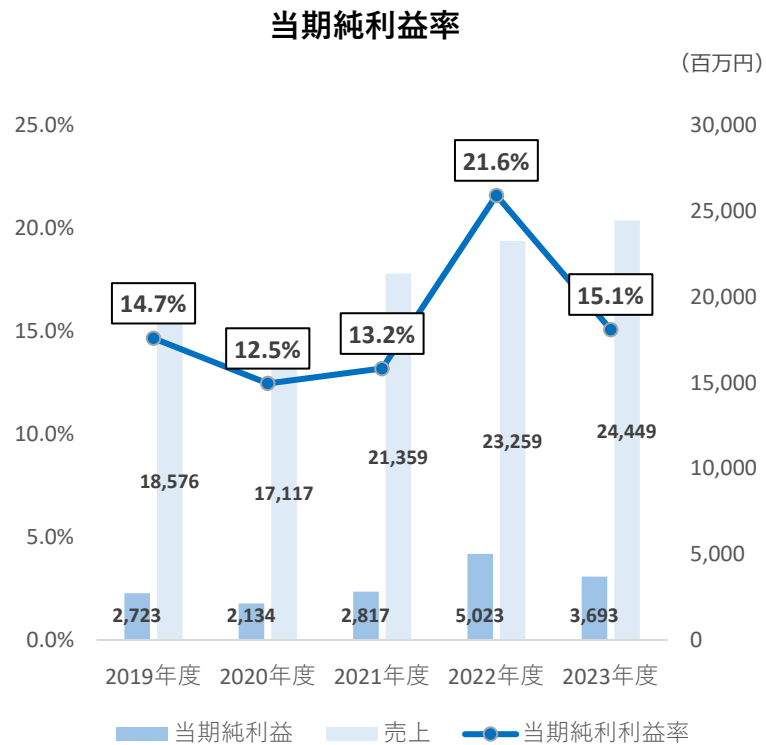
PBR (株価純資産倍率) 推移



ROE (自己資本利益率) 推移



- PBRは1倍を超えて推移。
- ROEは当社が株主資本コストを上回る水準として目標値としていた「8%以上」に対して下回って推移しており、重要な経営課題であると認識しております。
- 今後については、ROEの目標値を「9%以上」に引き上げ、達成に向けて取り組んで参ります。



・低ROEの要因として、総資産回転率や財務レバレッジが低水準であることが挙げられ、バランスシートの改善を進めると共に、収益力についても更なる向上に向けて取り組む必要がある。

収益力の向上

- **中期経営計画の実行**
2024年2月9日公表の「中期経営計画見直しに関するお知らせ」にて策定した計画の実行。
- **事業ポートフォリオの見直し**
資本効率の高い事業への経営資源の配分。
- **生産性の向上**
製造ラインの自動化・省人化や、工程の内製化等を通じて生産性向上に注力。

資産効率の改善

- **在庫の削減**
材料供給不足の影響等により膨らんでいる在庫を、海外工場を含めた全社的な在庫管理の徹底や部材発注方法の見直しにより、在庫回転期間2カ月を目標として削減に注力。
- **効率性を意識した経営**
管理指標としてROICをはじめとする効率性指標を導入し、資本効率の改善に注力。
- **成長に向けた資本活用**
需要が拡大している成長事業に積極的に投資を行う。

株主還元の強化

- ・ **配当方針の見直し**
従来の配当方針「配当性向30%以上」を資本コストを考慮し「配当性向50%以上」に見直し。
- ・ **自社株買いの実施**
持続的な成長や資本効率の向上に向けて、経営環境等を総合的に勘案し柔軟かつ機動的に実施。

IR活動の充実

- ・ **株主との建設的な対話**
株主・投資家との対話を通じて得られたフィードバック、課題を経営陣・取締役と共有し、今後の取組みに反映。
- ・ **情報開示の充実**
非財務情報を含めた開示の充実化。

(注意事項)

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。